

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名		静岡県立静岡聾学校 P T A
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	本校在籍児22人 通級指導教室33人 乳幼児教室5人

1. 使用状況

寄贈物品名	幼・小児用オーディオメータ（聴力測定器）
使用学年及び人数	本校在籍児22人 通級指導教室サテライト教室10人 乳幼児教室5人
使用頻度	週に1回程度
使用状況	昨年から継続して、幼稚部、小学部、中学部、地域支援部に1台ずつ設置し、週に1回、朝の会や自立活動の学習時に聞こえのチェックを行っている。通級指導教室の島田サテライト教室と牧之原サテライト教室にて、聴力のチェックに活用している。
物品の使用による変化や効果 ※1年目との違いを含めご記入ください。	<p>毎週、聞こえのチェックを行った際に、エアコンや空気清浄機を使用していると結果が悪くなることから、わざわざした騒音がある中では、いつも聞こえていた小さな音が聞きにくくなることがわかった。そのため、騒がしいときは、静かにすることが大切だと実感を伴って学習することができた。</p> <p>乳幼児教室では、慣れた教室環境で聴力測定の練習をすることができた。</p> <p>通級指導教室のサテライト教室は、市の施設の一室を借りて使用しているため、本校のような聴力測定の機器や防音室を備えていない。そのため、持ち運べるオーディオメータがあることで、通級生の聞こえの状態をきちんと把握することができた。また、通級生自身の聞こえの状態を学習することで、在籍校での聞こえにくさを学級の友達に伝えるときの手立ての一つとなった。サテライト教室は同日に2か所で行われているため、昨年に引き続き、毎週活用することができている。</p> <p>児童と一緒に使用することで、児童も音の大きさを客観的な指標で知ることができ、自分の聞こえへの理解を深めることができた。</p> <p>機器の整備により定期的な取り組みが促され、子供たち自身の聴覚管理の意識化を図るものとして使用できている。</p>
今後の活用の見通しや課題	今後も、定期的な聞こえのチェックを実施し、聞こえの変化にいち早く対応できる体制を整えたり、聞こえ方を児童生徒と確認し、児童生徒の障害認識を促すために活用したりしていきたい。
その他 希望や所感など	使用の仕方は1年目と同様ではあるが、継続した使用が大切であるため、今後も、呼びかけを行い定期的な使用をしていきたい。

2. 活用の様子

教室にて、聴力チェックをしている様子。
子どもの斜め後ろから音を提示し、聞こえたときは手を挙げたり、返事をしたりして、聞こえを確認している。

教室で行うため、子どもたちのいつもの生活環境の中で聞こえの様子を見ることができる。
大がかりな装置ではないので、幼児が遊びながらでも聞こえを確認することができる。また、使用方法も簡単のため、初めての人でも使用しやすい。

このチェックでは、毎回、同じ時間帯に同じ場所から同じ大きさの音が聞こえているか確認している。

この時に、結果が違った場合は、補聴器や人工内耳の電池を確認したり、防音室でオーディオメータを使って聴力測定を行っている。

